

浄土寺だより

浄土真宗本願寺派
石見真宗根本精舎



令和 6 年 4 月 号 Vol71 発行日 240412
〒699-4621

島根県邑智郡美郷町粕淵354

浄土寺 門信徒会

TEL 0855-75-0064 FAX 0855-75-0264



月

五月十九日(日) 降誕会法要

弱愚 阿弥陀

六月十六日(日) 仏教公開講座

雑草決 虫日傘

七月十六日(火) 安居会

仏事 慶事 向合

八月十九日(月) 盆法座

戦争楽 幼子質問 絶句

九月二十二日(日) 秋彼岸法座

沈む夕日に 人生の帰依処をおもう

十月十六日(水) 芋法事
ご法座に集える喜び
ようこそ ようこそ



一口メモ



領解出言(りょうげしゅごん)
つゆ(じゅう)

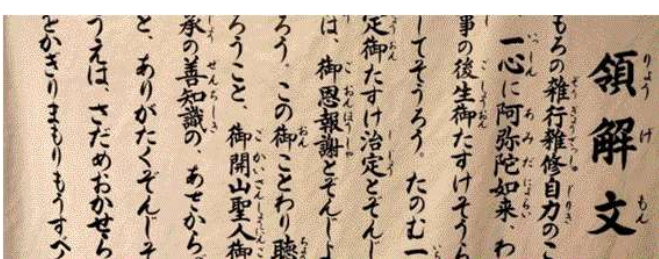
法座の最後、お通夜の終わりに「領解出言」と発音すると、みんなが後に続いて「もろもろの雅行難修自力の心をふりすて一心に…」と唱和していきます。その御文を領解文(りょうげもん)と言います。領解文とは浄土真宗の教えの受け取り方(領解)をあらわした文章です。本願寺八代の蓮如上人は事あるごとに、「ものを申せ」と口に出して気持ちをあらわすことを勧められました。教えをどのよう

石見地方(邑智郡)ではお通

夜の後、参列くださった皆さんと一緒にこの領解文を出言することが風習となっています。少し昔は誰も本を見ずに暗記して申していました。が、昨今コロナ禍でその風習も崩れてきました。それでも法座や通夜の後、必ずみんな唱和(しやわ)する領解文の伝統は残してくべきだと思っています。

昨年、本願寺では新しい領解文が発表しましたが、浄土寺では馴染みのある「これまでの領解文」を皆さんと一緒に出言しようと思っています。

領解文



リビング法話

立教開宗800年にあたり

住職 西原 真公

昨年2023（令和5）年、宗祖親鸞聖人のご誕生850年の法要をご本山で勤修されました。今年は立教開宗800年をお迎えします。

この法要は「親鸞聖人の説き示してください」とした浄土真宗の教えに出遇うことがなければ、今の私はあり得なかったという聖人への感謝と、その教えに出遇えたことの喜びを込めて、聖人のご誕生を祝い、『立教開宗』に感謝する」法要でもあります。

親鸞聖人は承安3年・一一七三年にご誕生となり、越後にご流罪になられ、赦免の後は関東に赴かれて『教行信証』の執筆にとりかかられました。

他力念仏のみ教えがまとめられた『教行信証』

は、浄土真宗の根本聖典という意味でご本典と呼ばれています。そして、そのご



本典の記述によつて、その成立を親鸞聖人52歳の時、すなわち元仁元年・一二二四年とみて、この年を立教開宗の年と定めています。

立教開宗とは、浄土真宗という教えが開かれたことをいいます。親鸞聖人のおかげにより、わたし達は、阿弥陀さまの本願の救いを教えていただきます。それは、本願の念仏を信じるだけで、善人も悪人も平等に往生する、念仏成仏の大道です。

ところで親鸞聖人は、自分が浄土真宗を開いたとは、おっしゃいません。師の法然聖人が開かれたのが浄土真宗であると、生涯にわたつて述べられています。『正信偈』には、

**本師源空明仏教 憐愍善悪凡夫人
真宗教証興片州 選択本願弘悪世**

（本師源空は、仏教にあきらかにして、善悪の凡夫人を憐愍せしむ。真宗の教証、片州に興す。選択本願悪世に弘む。）

と述べられ、『註釈版』207頁
『註釈版』源空讃には、

智慧光

本師源空

浄土真宗

選択本願

『註釈版』595頁

と讃えられています。

わたし達は、法然聖人が開かれたのが浄土真宗、親鸞聖人が開かれたのが浄土真宗と分けて見ますが、親鸞聖人にとっては、恩師法然聖人が開かれた教えこそ、浄土真宗だったのです。

『御文章』一帖目第十五通に、次のように述べられています。

されば自余の浄土宗はもろもろの雑行をゆるす、わが聖人は雑行をえらびたまふ。このゆゑに眞実報土の往生をとぐるなり。このいはれあるがゆゑに、別して眞の字を入れたまふなり。

『註釈版』1105頁

しかし「浄土真宗」とは、親鸞聖人が名づけられたものです。それは法然聖人が開かれた浄土宗が、後継者によつて、正行だけでなく雑行によつて



も往生できると説かれるようになったのに対して、親鸞聖人は、雑行は眞実報土に往生する正当な行ではなく、他力廻向の信心こそが報土往生の正因であることを示されたのです。つまり法然聖人が開顕された「浄土真宗」の眞実義を明らかにされたので、「眞」の一字を入れて、「浄土真宗」といわれたのでした。これにより今 現在に至るまで浄土真宗のみ教えが広まっているのです。

合掌

令和六年度浄土寺聞信仏教婦人会総会

二月二十五日（日）午前十時より浄土寺聞信仏教婦人会の総会が開催されました。真宗歌斉唱、十二礼で始まり、物故者追弔法要、予算決算、活動方針を決めて、ダーナ献金に続き、邑南町の西福寺、小笠原宣隆先生よりご法話をしていただき、わかりやすく尊いご縁にありました。

今回は四年ぶりに総会の後、懇親会を開催しました。お弁当を皆さんで食べ、お楽しみとしてみんなで童謡、歌謡曲など懐かしい曲を歌いました。久しぶりに大きな声を出すことができ、大いに盛り上がりました。来年も楽しい会にしたいと思います。



初参式 五月十九日（日）参加者募集！

宗祖降誕会法要（親鸞さまのお誕生お祝い法座）に当たり浄土寺本堂に於いて浄土寺聞信仏教婦人会の主催で、恒例の赤ちゃんから二歳までの初参式を行います。

昨年の一月以降にお生まれになった赤ちゃんは是非とも仏縁に会う初参式をお受けになるよう、お勧め致します。当日は赤ちゃんの手形足形の記録採取や記念品を贈ります。

浄土真宗本願寺派たすけあい運動募金

「令和六年能登半島地震 災害義援金」募集

令和六年一月一日元旦、石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生しました。このたびの地震によりお亡くなりになられた皆様、さらにはご遺族の皆様へ、心から哀悼の意を表します。また被災された皆様に衷心よりお見舞い申しあげます。

現在も大勢の方が避難生活を強いられるなど、先行きの見えない不安を抱えながらの生活は、想像を超えた厳しいものであることと存じます。一日も早い復興を願い、被災した人々を支援するため、継続した被災地の復興支援を目的として、「たすけあい運動募金」において募集を開始しています。募金にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。お参りの際はご協力をお願い致します。

総会にあたり

今年も四月二十一日永代経法要と併せて、午前十時より門信徒会総会を開催します。昨年の総会で、門信徒会会費の承認がありました。

ここ数年、門徒戸数の減少と様々な物価高騰により、会の運営が厳しく、葬儀などの会場費や法要の収支を加え、一時は立て直してききましたが、近年それでも住職からの助成が必要となりました。今後の浄土寺門信徒会の護持・運営を考えますと、どうしても会費の変更は避けて通れず、やむなく値上げとなりました。門信徒の皆様にはご無理を申しますが何卒ご理解の程、お願い申し上げます。

少年連盟中央研修会参

令和六年三月二十八日から三日間、京都西本願寺で少年連盟中央研修会があり浄土寺子ども会から二名参加しました。この中央研修会は今回が四十二回目となり、住職が小学生の時から始まった研修会です。しかしコロナ禍で四年ぶりの開催となりました。四年の間にチャンスを作ってくれた子もいたかもしれませんが、今回参加することができ、貴重な体験ができたことをとても喜んでいました。来年も是非参加したいと言っていました。



合同墓（合祀墓）希望者募集します

合同墓はまだまだ余裕があります。これから核家族化という家族制度の変化や少子化の進化で、お墓を守る継承者がいない環境にある方々が増えつつあります。このような悩みを解決する手段として、継承者に代わり、お寺でお預かりして永代に維持、管理をしようという考えで、合同墓を増設しました。年々希望される方が増えてきています。

富山 風の盆旅行の案内

コロナ前一度計画しましたが、この度十年ぶりに富山 風の盆旅行を企画しました。

風の盆とは富山県富山市南西部の八尾町で九月一、三日、町をあげて行なわれる祭りです。風の盆は二百十日に風の害にあわず豊作となることを祈る行事で、盆踊の一種のお

わら踊で風の神をしずめるといふ意味もあるそうです。踊りは八尾の旧町と呼ばれる十

一町内が行ない、それぞれに決めた順路で輪踊りと町流しがあります。特に夜中、それぞ

れ町の保存会が、自主的に町を踊りながら歩

く町流しはなんともいえない優雅で美しい光

景です。これは八尾

の町に泊まった人に

しか観られません。

八尾町内に泊ま

り、風の盆を観られ

る旅行は国内を探し

ても浄土寺しかあり

ません。唯一無二の

旅行です。興味のあ

る方は是非この機会

にお申し込み下さ

い。人数に限りはあ

ります。たくさんのご参加をお待ちします。

旅行代金：95000円 定員20名

出発：美郷町

問い合わせ：申し込みは浄土寺まで



浄土寺の令和六年度の主な法要行事

一月・元旦修正会（一日午前）年始

御正忌（十六日）十五日晩大逮夜

二月・仏婦総会（二十五日）小笠原宣隆師

三月・春彼岸法座（二十日）住職

四月・永代経法要（二十日～二十一日）

講師 温泉津 願林寺 窪田英俊師

・門信徒総会 二十一日

五月・降誕会法座（十九日）・初参式

六月・仏教公開講座（十六日）未定

七月・安居会（十六日）寺本介芳師

八月・盆法座（十九日）仏教入門講座

九月・秋彼岸（二十二日）未定

前々坊守祥月命日 前住職追弔法要

十月・芋法事（十六日）住職

十一月・報恩講（二十日晚～二十一日）

仏婦報恩講（二十一日午前）

講師 広島 菅 知尚師

十二月・歳末法座（十六日）仏教入門講座

大晦日（三十一日）除夜の鐘つき

十一時半から 竹灯籠ライトアップ

夜桜ライトアップ

今年は昨年より「週間遅く」開花し、三月二十六日頃に桜が咲き始めました。数年前から浄土寺でも桜のライトアップをしております。浄土寺のフェイスブックに載せています。

永代経懇志進納 方

（令和五年十一月から令和六年四月まで）

慈俊院釋明寿（俗名：柳楽トシコ）

施主 大田 柳楽栄一殿

釋慈豊（俗名：寺本豊）

施主 共栄 寺本智殿

忝なくお受けし教化の資とさせて戴きます

永代経懇志とは故人が今生でお念仏に遇い、往生の素懷を遂げた証（しるし）証であり、この境涯での形見を上置きとして遺（のこ）遺す意味であります。

浄土寺では還浄された故人の尊名と法名を永代まで法名軸に奉安顕彰し、永代に亘る祠堂読経のご懇念としてお受けさせて戴いていま



おさそい 案内

令和 年4月20日晚席 21日 日中

浄土寺総永代経法要

講師 温泉津 願林寺

窪田英俊 師